

韓国語動詞の過去形と日本語の「Vテイル／タ」をめぐる 対照研究方法論

—中国語・日本語の視点から—

A Methodology for a Contrastive Study of the Past Tense Forms of
Korean Verbs and “V *teiru* / *ta*” in Japanese

: From the Point of View of Chinese and Japanese

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

(現代マネジメント学部)

抄 録

動詞の過去形を用いた韓国語表現の中には、「Vテイル」を用いた日本語状態表現との間に対応関係が成立する

- (1) 저 사람 괜찮은 옷 입었네. / あの人いい服着テ(イ)ルな。(生越 1995:191 を一部修正)
- (2) 사람이 죽었다! / 人が死んで(イ)ル! (同上)

のようなケースが存在する。いずれも話者が発話時に初めて目にした状態を表現の前提としており、状態が生じたのは「動作(or 現象)の結果」である。このような対応例には韓国語動詞の過去形と日本語「Vタ」との間における使用条件の相違が反映されており、日本語であれば「Vテイル」によって表わされる出来事の領域にまで韓国語動詞の過去形の働きがおよんでいることがうかがわれる。「-テイル」と同じく動詞と組み合わせられて状態を表わす韓国語の表現形式としては“-아/어 있다”、“-고 있다”が存在するものの、一定の条件のもとでは“-아/어 있다”、“-고 있다”ではなく過去形が(or “-아/어 있다”、“-고 있다”よりは過去形が)選択されるのである。韓国語動詞の過去形、日本語の「Vタ」は、発話時以前に生じた出来事を表わすことを基本的な働きとしている点において共通しており¹⁾、典型的な対応例としては

- (3) 나는 어제 영화를 보았다. / 私は昨日映画を見ましタ。(石賢敬 2014:61) ※日本語訳は筆者
- (4) 새 우는 소리가 들렸다. / 鳥の鳴く声が聞こえタ。(同上:66)

のようなものが挙げられる。このことから、両形式の働きが多くの部分で重なっていることは明白であるが、対照研究においては異言語間で対応するとされる表現形式の相違点に着目し、その要因を探っていくこととなる。そのような作業を通して、状態表現に関わる日韓諸形式の特徴を従来よりも詳細に記述し、両言語の表現に反映されている発想の相違を明らかにすることが可能となるのであり、ひいては韓国語を学ぶ日本語話者、日本語を学ぶ韓国語話者が、母語の干渉による誤用を避けつつ状態表現を正しく使いこなせるようになることにもつながっていくのである。

本稿は、動詞の過去形を用いた韓国語表現、「Vテイル」を用いた日本語表現を中心に、“-고 있다”、“-아/어 있다”を用いた韓国語状態表現、「Vタ」を用いた日本語表現、さらには、「Vテイル」表現、「Vタ」表現との間に(1)、(2)のようなケースに似た対応関係が成立する中国語の“V了”表現、“V着”表現とも比較しながら、状態表現をめぐる日韓諸形式の働きについて考察するための着眼点、分析方法、予測される結論などを探ることを目的とする。

キーワード

過去形(past tense form) 動作／現象(action／phenomenon) テンス(tense)
アスペクト(aspect) 状態(state)

目次

- 1 韓国語動詞の過去形と日本語「Vテイル」の対応
 - 1.1 動作(or 現象)と状態
 - 1.2 日本語の「Vテイル」、「Vタ」
- 2 韓国語動詞の過去形とアスペクト形式
 - 2.1 アスペクト形式と組み合わせ可能な韓国語動詞
 - 2.2 アスペクト形式と組み合わせ不可能な韓国語動詞
- 3 状態を表わす「Vテイル」に対応する中国語の形式
 - 3.1 “V了”、「Vテイル」の対応
 - 3.2 中国語形容詞と日本語「Vテイル」
- 4 おわりに

1 韓国語動詞の過去形と日本語「Vテイル」の対応

1.1 動作(or 現象)と状態

(1)、(2)は、動詞の過去形を用いた韓国語表現に対して「Vテイル」を用いた日本語状態表現が対応するケースであり、それぞれ他動詞、自動詞が用いられている。同様の例としては、

- (5) 술 마셨다.／お酒飲んデ(イ)ル。
(生越 1995:188、199 を一部修正)
- (6) 남대문 열렸다!
／社会の窓が開いテ(イ)ル!
(同上:191 を一部修正)

のようなものが挙げられる。(1)～(2)、(5)～(6)の日本語表現に用いられている動詞は、「Vテイル」形の部分のみに着目してその意味を判断するのであれば、(2)、(6)の「死ぬ」、「開く」は瞬間動詞(or 変化動詞)、(5)の「飲む」は継続動詞(or 動作動詞)、(1)の「着る」は双方の性格を有する動詞ということになるのであろうが²⁾、上記の表現においてはいずれも「結果をともなう動作(or 現象)」を表わしている。生越 1995:188、191 には、(1)～(2)、(5)～(6)の韓国語表現が用いられる具体的な場面設定の例として、それぞれ「いい服を着た見知らぬ人を発見して」、「死体を発見してすぐ」、「近づいてきた見知らぬ人が酒臭いの気づいて横の友達に」、「相手の社

会の窓が開いているのを発見してすぐ」を挙げている。いずれも、話者が発話時に初めて目にした状態を前提としたものであり、そのような状態が生じたのは動詞が表わす動作(or 現象)の結果である³⁾。

韓国語動詞の過去形と日本語「Vテイル」の対応関係については、同:186、188、191 で指摘がなされており、その要旨は以下の通りである。

- ・多くの場合、「했다形 — シタ形」、「하고 있다形 / 있었다形 — シテイル形」という対応がみられる。
- ・発話時において目の前に変化の結果状態がある場合には「했다形 — シテイル形」という対応関係が成立するケースがある。
- ・その場合、話者はその変化あるいは動作そのものを見たわけではない。

これらのことは換言すれば、発話時において話者の目の前にある状態が動作(or 現象)の結果である場合、日本語表現では「Vテイル」により「動作(or 現象)の結果状態」⁴⁾として表現されるのに対し、韓国語表現では動詞の過去形により「発話時以前に終了した動作(or 現象)」として表現されるということ、すなわち、同一のコトガラを状態、動作(or 現象)のいずれとして表現するかの相違がみられるということである。このようなケースにおける韓国語動詞過去形の用法については、石賢敬 2014:61 が過去時制の働きの一つとして示している「単純過去」の用法

(3)～(4)のようなケース)との関係について検討を加えておく必要がある。これにより、本稿でとり上げた過去形の用法が、同形式の典型的用法の範囲内におさまるものであるのか、あるいは非典型的な用法と位置づけられるべきものであるのかが明らかとなり⁵⁾、ひいては日本語の「Vタ」、「Vテイル」との対応関係を総合的にみていくことにもつながるのである。

動詞の過去形を用いた韓国語表現に「Vテイル」を用いた日本語状態表現が対応する例としては(1)～(2)、(5)～(6)のほか、さらに

(7) 그 아이는 아빠를 닮았다.

／その子はお父さんに似テイル。

(東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語文法モジュール)

(8) 결혼하셨습니다?

／結婚しテイラッシュイマス(ティマス)か。

(生越 1995:198、同 1997:148 を一部修正)

のようなケースがある。(7)～(8)は、同一のコトガラを動作(or 現象)、状態のいずれとして表現するかという両言語間の相違がみられる点では(1)～(2)、(5)～(6)の場合と同様であるものの、話者が発話時に初めて目にした状態を前提としているとは限らない。また、“답다(似る)”、“결혼하다(結婚する)”は、“-고 있다”、“-아/어 있다”のようなアスペクト形式と組み合わせられて状態を表わすことのできない動詞である⁶⁾。これらのことは、「Vテイル」表現との間における対応関係成立の要因が(1)～(2)、(5)～(6)の場合と全く同じであるとは考えにくいことを示唆しており、両者を一括してあつかうのは避けた方がよさそうである。

1.2 日本語の「Vテイル」、「Vタ」

1.1 で述べたように、(1)～(2)、(5)～(6)における韓国語表現と同様の客観的事実を前提とするのであれば、日本語では「Vテイル」が用いられ、これらを「Vタ」に置き換えた

(1)’ あの人のいい服着タな。

(2)’ 人が死んダ!

(5)’ お酒飲んダ。

(6)’ 社会の窓が開いタ!

は非文もしくは不自然、あるいは少なくとも表現の適格性が劣ることとなる。このことには、韓国語動詞の過去形と日本語「Vタ」の間における使用条件の相違が関係している。森田 1989:615-616 の記述にみられるように、そもそも「Vタ」は「現在」、「過去」、「未来」という現実の時間区分とは異なる観念によって区別された時間区分にもとづいてその使用・不使用が決定される形式であり、時制を反映する韓国語動詞の過去形(テンス形式)とは異なるレベルのものである。このことは、『日本語学キーワード事典(「過去・回想の助動詞」、「完了の助動詞」の項)』に、「タ」が「過去のテンスに関わる」とともに「完了のアスペクト」にも関わる旨の記述がみられることや、瞬間動詞に「タ」がつくと完了になるとされていることにも示されており、韓国語動詞の過去形とは根本的に異なる点である。

一方、前述したように、話者が発話時に初めて目にした状態を表現の前提とする場合、日本語では「Vテイル」が用いられるのであるが、「Vタ」との間にはどのような使い分けがなされるのであろうか。この点について生越 1995:200-201 は、

① ある変化の結果状態を初めて見たとき、日本語ではシテイル形を使い、シタ形は使えない。

(生越 1995:200)

とする一方、「Vタ」が用いられるのは

② 話者が主体の変化前の状態をはっきり記憶している場合である。(同上:201)

とし、そのような例として

(9) いい服を着タな。(生越 1995:201)

(10) 死んダか。(同上:200)

(11) お酒飲んダのね。(同上:201)

(12) 結婚されましタか。(同上)

などを挙げるとともに、それぞれにふさわしい場面設定の例として「着替えてきた相手に」、「さっきまで生きていた人が息をしていないのに気づいて」、「酒の臭いをさせた夫が帰ってきたのに対し」、「久しぶりに会った人に」を示している。同:203 はさらに、

③ 日本語のシタ形とシテイル形が目の前の結果状

態に対して使われる場合、話者が直接獲得した情報に過去と現在で差がある場合にはシタ形、過去の情報を持たないか無視する場合にはシテイル形が使われる。(同上:203)

- ④ シタ形は、単なる状態が目の前にある場合でも情報の差があれば使われる。(同上:203)

とし、同 1997:149 は

- ⑤ 日本語では、その状況が生じる際の経緯全体を直接知覚したとき、あるいは直接知覚したのと同程度に経緯全体を把握できたとき、過去形「-タ」が使える。経緯全体を完全に把握できないときは、結果状態形「-テイル」を使う。(同上 1997:149)

とする一方、同:143-144 は「Vタ」の働きについて

- ⑥ 変化に至る過程の一部を知覚したり、以前に類似の体験をしていた場合、それをもとに変化の過程全体を直接知覚したのと同じくらい完全に把握できるなら、その変化を過去の出来事として扱うことができる。(同上:143-144)

としている。これらの記述からは、「Vテイル」が発話時における目の前の状態(=変化後の状態)のみを視野におさめて表現する形式であるのに対し⁷⁾、「Vタ」が用いられるためには変化前の状態に関する情報が不可欠(or 重要)であり、同形式は変化前、変化後の双方を視野におさめて出来事を表現するということがみてとれよう。但し、このような相違は、表現の前提となる客観的事実の異同とは必ずしも一致しない。このことは、同 1995:200-201 に挙げられている

- (13) (腕時計が止まっているのに気づいて)

あ、止まっ**テル**。(生越 1995:200)

- (13)' (よく止まる時計が止まっているのを見て)

あ、また止まっ**タ**。(同上:200-201)

を比較した場合、(13)は「止まっている状態」、(13)'は「動いている状態から止まっている状態への移行」のように異なる事実を前提としている可能性のほか、いずれも「止まっている状態」を前提としている可能性が考えられることから明白である。このよう

に、「Vタ」、「Vテイル」の役割分担の境界は必ずしも明確なものではなく、最終的には話者がコトガラをどのようにとらえるかによっていずれかの形式が選択されるのである(同様のことは(11)、(12)についてもあてはまり、同:200-201 には、(9)、(10)は「Vテイル」に置き換えると非文となるのに対し、(11)の「飲ん**ダ**」は「飲ん**デル**」に置き換え可能、(12)の「結婚されました**タ**か」を「結婚し**テイラッシャイマス**か」に置き換えると不自然ながら非文とまではされない旨が示されている)。

生越 1995、同 1997 は、韓国語動詞の過去形と“-아/어 있다”形、“-고 있다”形との使い分け、日本語の「Vタ」と「Vテイル」との使い分けについて比較考察を行なったものであるが、上記のような「Vタ」、「Vテイル」の相違は、韓国語表現と対照させることによって鮮明にうかび上がってくるものである。

一方、韓国語動詞の過去形について生越 1997:144 は

- ⑦ 変化前の状況 α から変化後の状況 β への変化の存在を把握できるなら、簡単に言えば、変化前の状況 α を頭の中で復元できるなら、その変化を過去の出来事として扱うことができる。その際、変化の様子を直接知覚したり、その変化と類似の体験をしている必要はない。(生越 1997:144)

のようにまとめ、同:146、149 には

- ⑧ 朝鮮語では、目の前の状況について、その状況が生じる際の経緯が把握でき、その状況を変化後の状態と位置づけたとき、つまり、その状況のある出来事の結果部分として把握したときには過去形が使える。(同上:146 を一部修正)

- ⑨ 朝鮮語では、経緯全体を完全に把握する必要はない。変化の経緯がおおよそ把握でき、その状況を変化が完結した状態だと感じたとき、つまり、その状況のある出来事の結果だと把握したとき、過去形「-았-」が使える。(同上:149)

という記述がみられる。これらのことは、同 1995:201 の「話者が変化前の状態を知っていたか否かは重要ではない」という記述や、同 1997:143 の「過去形の使用において、変化の様子や変化前の状況を

直接見たか、以前に体験したかどうかは問題とはならない」、「少なくとも変化前の状況がどうであったか、その場の状況からはっきりわかるのなら、過去形が使える」、「日本語のように、変化の過程全体を完全に再現できる必要はなく、変化が起こったことさえわかれば過去形が使える」などの記述において具体的に示されている。これらの記述からは、韓国語動詞の過去形は、変化の経緯について話者の把握度が日本語「Vタ」の場合ほど高くなくても用いられることがみてとれる。このように、韓国語動詞の過去形、日本語の「Vタ」は、変化前と変化後の状況に差がある場合に用いられる点では共通する反面、前者の使用条件は後者のそれほどに厳格ではなく、表現可能な出来事の範囲も広いため、日本語であれば「Vテイル」によって表わされる領域をもカバーし、話者が発話時に初めて目にした状態を前提として用いることができるのであり、このことが、本稿でとり上げた韓国語動詞の過去形と「Vテイル」との対応関係が成立する直接的な要因となっているのである。ちなみに、韓国語動詞の過去形と日本語「Vタ」との間にみられる上記のような相違について、同 1997:149 は、「どのような状況を過去扱いするかという語用論的な制約の違い」として説明できるとしている⁸⁾。

「-テイル」と同様に動作(or 現象)の結果状態を表わすことが可能な韓国語のアスペクト形式としては、“-아/어 있다”、“-고 있다”が存在する。韓国語動詞の過去形と日本語「Vタ」との間にみられる使用条件の相違を考えれば、これと連動した形で「Vテイル」と“-아/어 있다”形、“-고 있다”形との間にも何らかの相違が存在し、両言語間の対応関係に影響していると推察される。次節ではこの点について、韓国語動詞の過去形、“-아/어 있다”形、“-고 있다”形の使い分けにも目配りしながらみていくこととする。

2 韓国語動詞の過去形とアスペクト形式

2.1 アスペクト形式と組み合わせ可能な韓国語動詞

“-아/어 있다”はいわゆる自動詞と組み合わせられて動作(or 現象)の結果状態を表わす形式であり、日本語「Vテイル」との間に対応関係が成立する以下のようなケースがみられる。

- (14) 아~, 유코 씨도, 잔이 비어 있네요! 자
마셔요, 마셔!
／あ~, 優子さんも、コップが空いテ(イ)
ル! さあ一杯!

(中山 2008:124、125 を一部修正)

- (15) 다 앉아 있네. /みんな座ッテルな。
(生越 1995:193)

(14)は、「友人とのお酒の席において相手のコップが空になっているのに気づいた」時の発話であり、(15)は生越 1995:193 が「教室に入ってきた先生が座っている生徒達を見て」の発話としているものである。いずれも話者が発話時に初めて目にした状態を前提としており、そのような状態が生じたのは動詞が表わす動作(or 現象)の結果である。

過去形と“-아/어 있다”形の相違について、同:197 は

- ⑩ ㄹ다形が現在の結果状態に対して使われるのは話しことばに限られている。話者の驚き、無念さなど常に話者の何らかの感情を伴っている。その点で、主観性の強い表現と言えよう。
(生越 1995:197)

- ⑪ 해 있다形は話しことばだけでなく、書きことばでも使われ、ㄹ다形のように常に話者の感情を伴うということはない。その点からみて、해 있다形は客観性の強い、目の前の状態をそのまま表現する形だと考えられる。(同上)

とする一方、同:193 は

- ⑫ ㄹ다形は変化の結果状態よりも変化の成立自体が話者にとって重要な情報のとき使われ、해 있다形は変化の結果状態の存在が重要なときに使われると考えられる。(同上:193)

としており、両形式の相違が多面的であることがうかがわれる。

上記の記述のうち、「現在の結果状態に対して使われるのは話しことばに限られている」という過去形の特徴は、結果状態を表わす過去形の用法が同形式の典型的用法ではないことを示しており、同じく話し言葉において進行を表わす現在形の用法に通じるものがある。このことは、テンス形式である現在形、

過去形がそれぞれ「進行」、「結果状態」を表わすというアスペクト的側面を合わせもっていることを意味すると考えられ⁹⁾、生越 1995:196 が「朝鮮語のㄷㅅㅅ形の機能については様々な考え方があるが、少なくとも文脈や動詞の種類によって、アスペクト的な意味を持つときがあることは確かなようである」としていることにも示されている。また、本稿でとり上げた韓国語動詞の過去形の用法は、話者の驚きなどの感情をともなうため、ムード的側面をも有するといえることができ、同:197 はこの点についても言及している¹⁰⁾。

ところで、「結果状態」を前提とした表現に過去形が用いられる現象には、動詞自身の性格も深く関わっていると推察される。これは、韓国語動詞の現在形が「～スル」という意味のほかに「～シテイル」という意味を潜在的に含んでいる(=進行の意味を内包している)、“-고 있다”形式が用いられるのは進行中であることをとりたてて述べようとする表現意図がある場合であるという、成戸 2020:51-53、57 で述べたことからうかんでくる考えである。1.1 で述べたように、結果状態を前提として用いられる過去形の働きは、出来事を「発話時以前に終了した動作(or 現象)」として表わすことである点において「単純過去」の場合と同様である。但し、結果状態を前提とした表現に用いられる動詞は「結果をともなう動作(or 現象)」を表わすものであり、表現の前提となる客観的事実としては、動作(or 現象)が終了した後何らかの結果が残ることとなる。このことから、継続可能な動作(or 現象)を表わす動詞の現在形が進行の意味を潜在的に含んでいるのと同様に、瞬間動詞(or 変化動詞)の過去形が状態の意味を潜在的に含んでいるとみることはできないであろうか。少なくとも、このような用法に用いられる動詞そのものの性格が、過去形による状態表現成立に影響を与えている可能性を探ってみる価値はあると考えられる。過去形のこのような用法は、(3)～(4)の韓国語表現にみられるような「単純過去」ではなく、話者が発話時に初めて目にした状態を前提とするものであるため、動詞が過去形であることとの整合性を求めようとすれば上記のような考え方におのずといきつくのである。このことは、生越 1995:202-203 が

⑬ ㄷㅅㅅ形(ㄷㅅㅅ)の文の中にも変化の成立そのものが重要な場合と、変化の結果状態の持続が重要な場合が

ある。発話時まで変化の成立を知らなかったときは変化の成立そのもの、発話時に変化の成立をすでに知っていたときには結果の持続が重要な情報になっている。(生越 1995:202-203)

としていることとも矛盾せず、同:193 における前掲⑫の記述や、同:202 が

⑭ 現在目の前に、ある変化の結果状態が存在するとき、朝鮮語ではその変化の成立と変化結果の持続性、つまり変化の完了が話者にとって重要な情報のときㄷㅅㅅ形が使われ、変化の完了自体が重要な情報でないときにはㄹㅅㅅ形が使われる。

(同上:202)

としていることを考え合わせれば、韓国語動詞の過去形が状態を表わす形式としての性格を帯びることがあり、表現の比重をどこに置くかによる使い分けがㄹㅅㅅ形との間に存在するということが理解できよう。

生越の記述にみられる過去形と“-아/어 있다”形の相違は、以下のようなケースに端的にあらわれている。すなわち、

(2) 사람이 죽었다! (人が死んで(い)る!)

は話者が死体を発見して驚きとともに発した言葉であるのに対し、生越 1997:148 が「ニュースで現場の記者が」発した言葉として挙げている

(16) 길가에 사람들이 많이 죽어 있습니다.

(道ばたに人がたくさん死んでいます。)

(生越 1997:148)

は、記者が現場の状況をありのままに伝える場合の発話であり、より客観的な情景描写の表現である¹¹⁾。

(16)がこのような性格を有するのは、「目の前の状態をそのまま表現する」という“-아/어 있다”形式の働き(生越 1995:197 の前掲⑪)によるのであるが、この働きは、安平鎬 2001:233、240-241 が指摘しているように“있다”が語彙的意味(ある/いる)をとどめていること、表現全体が存在表現としての性格を帯びていることに起因するようであり、これらの点は、生越 1995:193 の前掲⑫に「変化の結果状態の存在」という文言が含まれていることや、(16)が空間を表

わす名詞的成分(道ばた)を含んでおり存在表現としての特徴を備えていることからもうかがわれる。同様に、

- (17) 어, **멈췄다**! (あ、止まってる。)
(生越 1995:191)

は腕時計が止まっているのに気づいた話者の驚きを含んだ表現であるのに対し、同 1997:149 が「会社の壁に掛かった時計を見て、部長がひとりごとで」言う場合の発話として挙げている

- (18) 아까 주의를 줬는데 여전히 **멈춰** 있네.
(さっき注意したのに相変わらず止まってるな。)(同上 1997:149)

は“여전히(相変わらず)”が含まれていることから明白なように、時計がとまっているのは発話時に気づいたことではなく、驚きの気持ちも前面に出ていない。このことは、目の前の状態を客観的に描写するのに用いられるという“-아/어 있다”表現の特徴によるものであり、(16)、(18)においては、状態出現以前についての情報があつたとしても、それが重要でないと判断された、換言すれば、発話時の状態をその出現以前と切り離して述べようとしたために“-아/어 있다”が選択されたと推察される¹²⁾。このことが鮮明にあらわれているのが、同:140、145に挙げられている以下のようなケースである。

- (19) 지갑이 **떨어졌**는데요.
／財布落ちまし**タ**よ。(生越 1997:140)
(20) 지갑이 **떨어져** 있다!
／財布が落ち**テル**!(同上:145)

過去形を用いた(19)の韓国語表現は、「電車の中で、前の座席の人の財布が落ちたのを見てすぐ、落とした人に」という場面設定の例が示されているように、財布が落ちる前後の様子を目にした話者の発話であり、日本語表現においても「Vタ」が用いられている¹³⁾。これに対し、“-아/어 있다”を用いた(20)の韓国語表現は、「道に誰かの財布が落ちているのを見て」という場面設定の例が示されているように、財布を発見した時点の状態を述べているのであって、状態出現以前についての情報はなく、問題とされてもいない。

一方、「川に浮かんでいる物を見つけて」という場面設定の例が示されている

- (21) 뭔가 **떠** 있네. (何か浮かんでる。)
(同上:140、145 を一部修正)

の場合は、状態出現以前の状況を想像することが困難もしくは無意味である、すなわち問題とはならないため、(20)の場合と同様に、話者が目にした時点の状態として表現する“-아/어 있다”形が用いられていると推察される。“-아/어 있다”表現、過去形を用いた表現は、発話時において話者の目の前に状態が存在することを前提として用いられる点で共通する一方、前者の場合は発話時の状態に比重が置かれ、コトガラを純然たる状態として表わすことが可能な点で後者とは異なるのである。このことは換言すれば、前者の場合には発話時以前と発話時が不連続であるのに対し、後者の場合には連続性を有するということである。“-아/어 있다”表現のこのような特徴は、(14)、(15)の韓国語表現についてもあてはまり、前述したような場面設定の例からもみてとれるように、いずれも発話時以前の状況を想像することが容易ではあるものの、それらが問題とされていないために“-아/어 있다”が用いられていると考えられる。発話時のみをとり上げるという“-아/어 있다”形のこのような特徴はまた、過去形との間に以下のようなニュアンスの相違を引き起こすことがある。

- (22) 미안하지만 다음주는 예정이 **꽉** **췌**는데요. (生越 1995:195)
(22)’ 미안하지만 다음주는 예정이 **꽉 차** **있**는데요. (同上)

(22)、(22)’ はいずれも生越 1995:195 が「相手の誘いに対して」の発話である

- (22)”すみませんが、来週は予定がぎっしり詰ま**っテル**んですが。(同上)

に対応する韓国語表現として挙げている例であり、(22)は「きっぱりと断る感じがする」、(22)’は「変更できる可能性がありそう」というインフォーマントの判断が示されている。両者の間にこのような相違が生じるのは、発話時に限定して状態を表わす

“-아/어 있다”形とは異なって、「発話時以前に終了した動作(or 現象)」として状態を表わす過去形の働きにより、状態が確定したものである(=予定が変更不可能である)というニュアンスを帯びることに起因すると推察されるが、より厳密な説明を行なうのであれば、日本語「Vタ」と韓国語動詞の過去形との相違について述べた井上・生越 1997:48 の

⑮ 日本語では、発話時点において直接知覚されている状況αが知覚された最初の瞬間、あるいは状況βが開始された最初の瞬間だけを取りあげて独立の過去の状況として「-タ」で叙述することが容易である。(井上・生越 1997:48)

⑯ 朝鮮語では「当該の状況が直接知覚されている間は過去の状況として扱えない」という語用論的な制約が強くはたらし、原則として、当該の状況が直接知覚できなくなってから一定の時間が経過した後、あるいは当該の状況について話し手が一定の完結感を感じた後に状況全体が過去の状況として「-ess-」で叙述される。日本語のような「状況の最初の瞬間のきりはなし」はできない。
(同上)

という記述が有力な根拠となりそうである。(22)の場合、「予定がぎっしり詰まっている」ことは発話時点において動かし難い状況であると判断されたわけであるが、これは、上記の⑯に示されている「話し手が一定の完結感を感じた後」における状況の叙述に用いられるという“-ess-”の特徴によって、「そのような状態は確定したものである」というニュアンスが生じたためであり、このことが、発話時に限定して状態を表わす“-아/어 있다”を用いた(22)’と直接に比較されたことにより際立ったと推察される。

“-아/어 있다”が発話時のみを取り上げ、コトガラを純然たる状態ととらえる形式であるということは、安平鎬 2001:240-244 に、現代韓国語の“-아/어 있다”形における“있다”は完全には文法化しておらず固有の語彙的意味をとどめているため、“-아/어 있다”表現は基本的には主体の「存在状態(=どのように存在するか)」を表わす存在文であり、場所を表わす成分が表現に含まれていなければ「欠落感」ともなうケースがある¹⁴⁾旨の記述がみられることも符合する。これに対し、動詞の過去形は、1.1

で述べたようにコトガラを「発話時以前に終了した動作(or 現象)」ととらえたものであり、この点は(19)の韓国語表現に過去形が用いられていることによっても明白である。

(19)、(20)に対し、

(23) 장갑 떨어졌다.

／手袋落ちテル。(生越 1997:144)

(24) 장갑 떨어져 있네.

／手袋落ちテル。(同上)

の場合にはやや事情が異なる。(23)、(24)の韓国語表現は、生越 1997:144 においてそれぞれ「喫茶店でA B二人が話している。話が終わってAが先に立とうとしたとき、テーブルの下にBの手袋が落ちているのに気づいた。Aがまだ座っているBに対して」、「喫茶店でA B二人が話している。話が終わって立とうとしたら、テーブルの下にAでもBのものでもない、誰かの手袋が落ちているのにAが気づいて」という場面設定がなされている。“-아/어 있다”を用いた(24)の韓国語表現は、(20)のそれと同じく発話時の状態を述べているのに対し、(23)の韓国語表現は、(19)のそれとは異なって、手袋が落ちるのを話者が見ていないという前提で過去形が用いられており、「Vテイル」を用いた日本語表現との相違がうきばりとなっている。(23)と同様のケースとしては、

(25) 쇼핑백 찢어졌는데요.

／紙袋、破れテマスよ。(同上:145)

のようなものが挙げられる。(25)の韓国語表現に対しては「電車の中で、前の座席の人が持っている紙袋が破れ、中のものが今にも落ちそうになっている。その人が気づいていないようなので、知らせる」という場面設定がなされていることから、紙袋が破れるのを話者が見ていないという前提で過去形が用いられていることは明白である。話者が変化の過程を見ていない(23)、(25)のようなケースで過去形が用いられるのは、「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提とするという過去形の使用条件を満たしているためである。この点においては、生越 1995:194 が「変化の成立がほぼ確実で、それが予期せぬ出来事の場合はㄷ形が使われる」例として挙げている

- (26) (相手の服のボタンがとれているのを発見して) 단추 떨어졌다!
／ボタンがとれ**テル**! (生越 1995:194)

も同様であり、変化前後の様子が容易に推測でき、出来事を予期せぬものとして(驚きとともに)とらえたケースである。

生越 1997:146 は、⑧の記述とならんで

- ⑩ その経緯が把握できず、目の前の状況の位置づけがうまくできないとき、つまり、その状況をもとにして一つのまとまった出来事を再構築できないときには結果状態形を使う。(生越 1997:146)

とした上で、日本語の「タ」形の場合には経緯が把握できたとして同形式の使える基準が厳しく(直接知覚かそれに準ずる情報量を持っていなければならない)、結果的に結果状態形(=Vテイル)の使用範囲が朝鮮語に比べて広がっている、としている。このように、韓国語動詞の過去形、“-아/어 있다”形の使い分けと、日本語の「Vタ」、「Vテイル」のそれとの間には、状態が出現する前後の変化について話者がどの程度まで把握しているかという点での差異がみられるのである。

状態を表わす韓国語のアスペクト形式としては“-아/어 있다”のほか、“-고 있다”が存在する。成戸 2020:47-49、58-62 で紹介したように、自動詞と組み合わせられて状態を表わすにとどまる前者に対し、後者は他動詞とも組み合わせられ、進行を表わすのに用いることも、“입다(着る、(ズボンやスカートを)はく)”、“신다((靴を)はく)”などの身につけ動詞や“안다(抱く)”、“타다(乗る)”などと組み合わせられて状態を表わすことも可能である¹⁵⁾。状態を表わす場合に用いられる動詞が限定的であるのは、同形式が進行を表わす働きを兼ね備えていることと深く関わっていると推察される。

1.1 で述べたように、話者が発話時に初めて目にした状態を前提とするのであれば、動詞の過去形を用いた

- (1) 저 사람 팬찮은 옷 입었네.
(あの人いい服着て(いる)な。)

のような表現が用いられる。生越 1995:188 は、“입다”は“-고 있다”形で変化の結果状態を表わし

えるとする一方、同:191 には「いい服を着た見知らぬ人を発見して」言うのであれば“-고 있다”のような“-고 있다”形を用いると非文となる旨の記述がみられ、過去形を用いた表現との相違が鮮明にみてとれる。生越の記述によるのであれば、“-고 있다”形を用いた

- (27) 영이는 예쁜 옷을 입고 있다.
(ヨンイはかわいい服を着ている。)
(『新装版 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

- (28) 안경을 벗고 있으니까 아무것도 안 보이네요.
(眼鏡を外しているから、何も見えませんね。)
(『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

が成立するのは過去形の使用条件を満たしていないことによる、具体的には、動作主体が既知のものであり、発話時における目の前の状態を前提としていたとしてもその時初めて目にしたのではないことによるということとなる。同様のケースとしては、

- (29) 오늘 다나카 씨는 빨간 드레스를 입고 있습니다.
(今日田中さんは赤いドレスを着ています。)
(生越 1995:192)

が挙げられる。(29)は、生越 1995:192-193 が「司会者が田中さんを紹介するとき」という場面設定とともに「変化の結果状態が現在目の前にあるときの表現である」として挙げている例であるが¹⁶⁾、(1)の場合のように「見知らぬ人を発見して」言うのではなく、話者の主観をとらなくてもいいために“-고 있다”形が用いられていると考えられる。

ところで、前田 1982:71-72 は“-고 있다”形を用いた進行表現の例として

- (30) 나는 지금 밥을 먹고 있다.
(僕は今ごはんを食べている。)
(前田 1982:71-72)

を挙げる一方、状態を表わす場合には“-고 있다”

形を用いた

- (30)' 나는 이미 밥을 먹고 있다.
(僕は既にごはんを食べている。)
(同上:72)

や過去形を用いた

- (30)" 나는 이미 밥을 먹었다.
(僕は既にごはんを食べている。)(同上)

のような形になるとするとともに、両者の区別は明瞭でないというインフォーマント調査の結果を紹介している。この記述は、“-고 있다”形を用いた状態表現について考えるための重要なヒントを提供してくれるものである。状態を表わす“-고 있다”表現に用いられる動詞が限定的であることを考え合わせれば、上記の(30)'、(30)"のうち、状態を前提とした表現としては、過去形を用いた後者の方がふさわしいとみるのが自然ではなかろうか。筆者が行なったインフォーマント調査においては、(30)'は非文であるが、例えば「二人で一緒に食事をする約束をしていたが、一人が約束の時間に来ておらず、もう一人が先に食べ始めていた」という状況において、すでに食べ始めている人が遅れてきた相手に言う表現としてであれば成立するのに対し、(30)"は自然な表現として成立するとされた。この判断結果からは、上記の場面設定のもとで成立する(30)'の“먹고 있다”は「進行」を表わすのであり、状態を前提とする表現として成立するのは(30)"であるということがうかがわれる。これらのことから、状態を前提とした表現には、“-고 있다”形よりも過去形が選択される傾向にあることがみてとれよう。

以上のことを念頭に置いて、自動詞“열리다(開く)”，他動詞“열다(開ける)”のような自他のペアを有する動詞を用いたケースについてみてみよう。

- (31) 문이 열렸다, 야.
(門が開いてるよ、ほら。)
(李在鉉 2017:189)

に対しては、“열렸다”を“열여 있다”に置き換えた

- (31)' 문이 열려 있다, 야.

も自然な表現として成立し、この場合には形式・意味ともに状態表現としての体裁を備えている。これに対し、状態を前提とした表現に他動詞“열다”を用いるのであれば、“-고 있다”形式をとる

- (32) 그는 이미 창문을 열고 있다.

よりは、過去形をとる

- (32)' 그는 이미 창문을 열었다.
(彼は既に窓を開けている／開けた。)

がふさわしいようである。筆者によるインフォーマント調査においては、(32)'は、「開けた状態」を前提とした表現に解することも、「単純過去」を表わす表現に解することも可能である(この点は自動詞を用いた(31)も同様であり、「話者の目の前で開いた」ことを表わすとされた)のに対し、(32)は例えば「すでに窓を開け始めている」ことを前提として用いられる進行表現であって状態は表わさないとされる一方、(32)'が「単純過去」を表わす表現として用いられた場合における整合性は、“이미”との共起関係もあって“아/어 놓다”を用いた

- (32)" 그는 이미 창문을 열어놓았다.
(彼は既に窓を開けておいた。)

におよばないとされた。状態を前提とする場合に、“-고 있다”形よりも過去形を用いる方が表現の適合性においてまさるのは、“-고 있다”形が進行を表わす働きを兼ねており、同形式の表わすコトガラが「動作の結果、状態が持続している場合」においても動作の側に属せしめられているとみるのが妥当であるという、成戸 2020:60-61 で述べたことと表裏一体をなしていると考えられる。ついであるが、このことから“-고 있다”における“있다”の語彙的意味は“-아/어 있다”におけるほどには強くないことがよみとれそうである。“-고 있다”形を用いた進行表現としては(30)のほか、さらに

- (33) 그는 지금 창문을 열고 있다.
(彼は今窓を開けている。)(前田 1982:69)

のようなものが挙げられるが、動作の結果状態を前提とする表現において同形式を用いようとすれば、

進行を表わす働きとの間に用法上の「衝突」が生じるため、過去形が選択されやすいのではなかろうか。この点については、

(34) 그는 언제나 창문을 열고 있다.

(彼はいつも窓を開けている。)

(成戸 2020:53、前田 1982:69)

のようなケースとも比較しながら詳細な検討を行なう必要がある。(34)は、「(いつも)開けた状態にしている」ことを前提とした表現と位置づけることもできそうであり、この点からみれば、「開けた状態」を前提とした場合の(32)のようなケースに近いように感じられる反面、反復して行なわれる習慣的行為(=断続的にくり返し行なわれる動作)を表わしている点からみれば、(33)と同じく進行表現と位置づける方がよさそうにも思える¹⁷⁾。

このように、状態表現における過去形、“-고 있다”形の使い分けは、“-고 있다”形の進行を表わす働きとの兼ね合いから、過去形、“-아/어 있다”形の使い分けとは異なる様相を呈しており、このことが日本語の「-タ」、「-テイル」との対応関係にも影響をおよぼしていると推察される。それぞれの言語における諸形式の使い分けについて生越 1995:203 が、「現段階では、このような朝鮮語と日本語の違いを統一的な枠組みで説明するには至っていない」としているような状況も、多くはこの点から生じていると考えられる。

2.2 アスペクト形式と組み合わせ不可能な韓国語動詞

1.1 で紹介したように、韓国語動詞の中には“-고 있다”、“-아/어 있다”のようなアスペクト形式と組み合わせられて状態を表わすことのできない“답다(似る)”、“결혼하다(結婚する)”などが存在し、これらの過去形に対して日本語「Vテイル」形が対応する(7)、(8)のようなケースがみられる。このような対応例における両言語間の相違については、アスペクト形式と組み合わせ可能な動詞の場合と同じく、「発話時以前に終了した動作(or 現象)」と「動作(or 現象)の結果状態」の相違、すなわち、動作(or 現象)と状態の相違であるとみるのが妥当であろう。但し、1.1 で述べたように、「Vテイル」との対応関係成立の要因がアスペクト形式と組み合わせ可能な動詞の場合と全く同じであるとは考えにくく、このことは、

生越 1995:198-199 の「답다のように変化時のはっきりしない変化を表す動詞の場合、その있다形は発話時と関係なく単に主体の持つ性質・特徴を表すものとなり、書きことばでも使われる」という記述によっても理解できよう¹⁸⁾。ちなみに、“결혼하다”は“-고 있다”形を用いて進行を表わすことが可能であり、このことは『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』が「결혼하고 있다は結婚式を挙げていることを意味します」としていることにも示されているほか、「断続して行なわれる複数の行為」すなわち進行を表わす

(35) 교포 2-3 세 중 80%정도가 일본인과

결혼하고 있다.

(在日韓国・朝鮮人 2、3 世の中で 80%程度が日本人と結婚している。)

(NHK2004 年 6 月:57)

のようなケースもみられる¹⁹⁾。このようなケースの存在は、“결혼하다”が状態を前提とした表現においてアスペクト形式と組み合わせられないことと矛盾するものではない。

“답다”、“결혼하다”などの動詞は、過去形を用いた(7)、(8)の韓国語表現が「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提としているとは限らない点からみても、アスペクト形式と組み合わせ可能な動詞とは異なる性格を有することが理解できよう。このことは、管野 1986:63、同 1990:260 が、一部の動詞や形容詞の過去形には「現在の状態」を表わすもの、すなわち日本語の「……している」に対応するものがあるとして、形容詞の過去形を用いた

(36) 산꼭대기까지는 아직 멀었다.

(山頂まではまだ遠い。)

(管野 1986:63、同 1990:260)

などとともに

(37) 이 아이는 아버지를 닮았다.

(このこどもは父に似ている。)

(同上 1986:63)

を挙げていることからもうかがわれるのであるが、形容詞の過去形を用いた(36)は、

(38) 날씨가 **좋았다**. (天氣が良かった。)

(石賢敬 2014:61)

のような過去の状態を表わすケースとはどのような点で異なるのであろうか。この点については、日本語における静的述語の「**ル**」形、「**タ**」形について述べた近藤 2008 が参考となろう。同:65-66 は、「本屋で友達が本を手にとろうとしている」のを見た場合の発話として

(39) その本おもしろいよ。(近藤 2008:65)

(39)' その本おもしろかつ**タ**よ。(同上)

を挙げ、(39)については「現在の状態を表すので、話し手はその本が面白いということを発話現在の段階で真であると信じていることが伝わります。話し手はその本の面白さはみんなに認められる性質のものだという判断を**ル**形で表します」とする一方、(39)' については「まず、話し手がその本をすでに読んだということが伝わります。加えて、その本の面白さは、発話時点より前に話し手がその本を読んだ時点(過去のある時点)の状態だったということを主張します。それと同時に、その本が面白いということが発話時点でも真かどうかには触れられていません。静的述語の**タ**形は過去のある時点での状態を表すに過ぎません。つまり、発話時以前のある時点で、あるものが静的述語の意味する性質を持っていると話し手が判断したと言うことで、先の本屋の会話のような場合には個人的な見解であることが伝わります」としている。近藤の記述からは、形容詞が「**タ**」形をとらない場合には対象となる事物の一般的な性質(属性)、すなわち恒常的な状態が表現されるのに対し、「**タ**」形をとる場合には対象となる事物が特定の性質をもつという、話者の体験をふまえた判断結果としての状態、すなわち個別の状態が表現されるという相違がみられるケースの存在がみてとれる。日本語形容詞が「**タ**」形をとるか否かによって生じるこのような相違が、韓国語形容詞の過去形、非過去形についてもあてはまるかどうかについては詳細な検討を経なければならないが、(36)のような韓国語形容詞表現について、過去形をとらない場合との間にいかなる相違がみられるかを探るための有力な手がかりとなる可能性は期待できそうである。(36)と

(36)' 산꼭대기까지는 아직 **멀다**.

との間にいかなる相違がみられるかについては、前者に対しては「実際に山に登っている」、後者に対しては「遠くから山を見ている」というような場面が想定されるというインフォーマントの判断結果が出たため、韓国語形容詞の過去形についても、話者の体験をふまえた判断結果としての状態、すなわち個別の状態という、日本語形容詞の「**タ**」形の特徴があてはまる可能性がある。この点については、井上・生越 1997:40-43 が形容詞表現を含めた状態表現について

⑮ 日本語では、発話時において知覚されている状態が観察された最初の瞬間だけを独立の過去の状況として述べることができるのに対し、朝鮮語では状態の存在が直接知覚されなくなり、状態全体を現在から切り離された形で存在した状態として把握できるようになって初めて過去形が使えるようになる。(井上・生越 1997:40 の要旨)
(日本語では、発見の瞬間に観察された状態だけを独立の過去の状態として叙述し、「観察行為の結果、当該の状態の存在が判明した」という過程が存在したことを暗示するのに対し、朝鮮語では、眼前に存在する状態は原則として現在の状態として述べられ、過去形が使えるのは現場を離れた後である。)(同:41 の要旨)

⑯ 朝鮮語においては、話し手が発話時以前からもっていた仮説が正しかった(あるいは誤っていた)ことが検証され、「本当のところはどうであったか」が理解できたという場合には、発話時において存在する状態について過去形を用いることができる。(同:42 の要旨)
(発話時以前から事実として存在していたが話し手は知らなかったことが発話時において理解できたという場合には、発話時において存在する状態について過去形を用いることができる。)

(同:43 の要旨)

としていること(⑮の内容は⑮、⑯と重複)との整合性に留意しながら詳細な分析を行なう必要がある。

また、管野の前掲記述からは、アスペクト形式をとらない“**ㄷ다**”が日本語の「**似テイル**」と同じ客観的事実を前提として用いられる場合には非アスペ

クト形式によらざるを得ないこと、その場合には形容詞に近い性格を帯びることがみてとれる。これらの点については、生越 1995:205 が「朝鮮語で形容詞的な性格を持つㄴ다(似る)などはもっぱらㄴ다形で使われる」としていることや、安平鎬 2001:216-217 が「単純状態」を表わすㄴ다形の例として“ㄴ다”の過去形を用いたケースを挙げていること、さらには管野 2017:102 の「本来朝鮮語では動詞と形容詞とが用言という一つの品詞に統合されていた」、「(現代朝鮮語には)動詞と形容詞の区別のあいまいな用言がある」という記述などにも示されている²⁰⁾。以上のことは、韓国語においては動詞と形容詞の境界が明確とは言いがたく、動詞的性格の強いものから形容詞的性格の強いものまでが階層をなしていることを示唆しているようであり、詳細にみていけばそのような現象が観察される可能性がある。この点については、例えば、同じく「疲れている」を表わす成分であっても、形容詞の“피곤하다”とは異なって、動詞の“지치다”は“-아/어 있다”形をとる²¹⁾というようなことにも目配りしつつ分析を行なっていく必要がある。“ㄴ다”のような動詞の過去形が状態を前提とした表現に用いられるに至った要因に言及した記述としては、生越 1995:199 の「ㄴ다などのㄴ다形が単なる状態を表すのは、それらの変化が変化時を特定できないものであるため、ㄴ다形が表す変化の成立という意味が薄れ、もう一つの結果状態の持続性だけが残ったためと考えられる。その結果、意味的には形容詞に近いものになっている」がある。但し、形容詞に近い性格を帯びるとはいつても、“ㄴ다”、“결혼하다”は現代韓国語においてはあくまで動詞であり、このことは石賢敬 2014:60 が“-았-/었-”の機能の一つとする「完了した状況の持続」の例として

(40) 너 누굴 닮았니? — 엄마를 닮았어요.

(あなた、誰に似ているの。— 母に似ています。)(石賢敬 2014:60)

を挙げていることや、生越 1995:188 が

(41) 영철이는 아버지 닮았네.

(ヨンチョリはお父さんに似ているな(お父さん似だな。))(生越 1995:188)

を挙げ、「実際は単なる状態の場合でも、動詞を使う

ことによって、その状態があたかも変化の結果のように表現されている」としていることから明白である。

“ㄴ다”の場合と同じく、“결혼하다”の過去形も状態を前提として用いることが可能であり、(8)のようなケースが存在する。(8)は「初対面の相手」に対する発話として挙げられているのであるが、これは場面設定の一例にすぎず、厳密には「(初対面であるか否かにかかわらず)配偶者がいる」という発話時点の状態について述べているのである²²⁾。同様の記述は同:199 にもみられ、「결혼하다のㄴ다形も、単に既婚であることを示すのみで、話者の特別な感情を含まない」とされているが、話者の主観をとまなわない点でアスペクト形式をとる動詞の場合とは異なっている。

ちなみに、アスペクト形式をとらない“ㄴ다”、“결혼하다”の過去形に対しても日本語「Vテイル」が対応する(7)～(8)のようなケースが存在し、「Vタ」に置き換えた場合には「発話時以前に終了した動作(or 現象)」を表わす非状態表現となる。

アスペクト形式をとらない“ㄴ다”、“결혼하다”などの過去形は、アスペクト形式をとる動詞とは異なる特徴、すなわち同:198-199 に示されている

- イ. 発話時と関係なく単に主体の持つ性質・特徴を表わす
- ロ. 書き言葉においても用いられる
- ハ. 話者の特別な感情を含まない
- ニ. 変化時のはっきりしない変化を表わすことができる
- ホ. 意味的には形容詞に近い

を有し、これらは日本語「Vテイル」についてもあてはまる。また、「Vテイル」の中には

(42) 예, 잠이 모자라서 피곤해요.

／ええ、寝不足で疲れテイマス。

(NHK2004年6月:54、72)

における“피곤하다／疲れテイル”のような、韓国語形容詞との間に対応関係が成立するケースもあるため、アスペクト形式をとらない韓国語動詞の過去形と「Vテイル」との対照作業は、最終的には韓国語形容詞をも視野に入れて行なっていく必要がある。

3 状態を表わす「Vテイル」に対応する中国語の形式

3.1 “V了”、「Vテイル」の対応

本稿の主たる考察対象である韓国語動詞の過去形、日本語「Vテイル」の対応に似た現象は中国語と日本語との間にもみられ、中国語“V了”に対して日本語「Vテイル」が対応する以下のようなケースが存在する。

- (43) 啊, 那些花都枯了。／あ、花が枯れテイル。
(郭春貴 2017:142、308)
- (44) 这些香蕉都烂了, 不能吃了。
／これらのバナナは全部腐っテイルから、
もう食べられないよ。(同上)
- (45) 犯人死了。／犯人は死んデイル。
(陳淑梅 1997:25)

(43)は、話者が発話時に初めて目にした状態を前提としていることが明白であるのに対し、(45)は必ずしもそうではなく、目の前に状態が存在しない場合にも用いられる。(44)は、目の前の状態を前提とした表現に解される(目の前に存在しない状態を前提とするのであれば“这些”ではなく“那些”を用いる)ものの、それが初めて目にしたものであるか否かは不明である。

“V了”はアスペクト形式とされるのが通例であって時制とは関わりをもたず、「動態助詞」とよばれる“-了”は動詞に付加されて「動作(or 現象)の完了」を明示する成分であるため²³⁾、「単純過去」を表わす韓国語動詞の過去形の場合と同様に、“V了”に対しても日本語の「Vタ」が対応することが多い。従って、(43)～(45)における中国語表現はコトガラを「発話時以前に完了した動作(or 現象)」として、日本語表現はコトガラを「動作(or 現象)の結果状態」として表わしていることとなる。この点においては1.1で述べた動詞の過去形を用いた韓国語表現(「発話時以前に終了した動作(or 現象)」を表わす)と日本語「Vテイル」表現との相違に極めて近く、コトガラを動作(or 現象)、状態のいずれとして表現するかの相違である点においては共通しているといえることができる。このため、中国語を学ぶ日本語話者、日本語を学ぶ中国語話者による母語の干渉からくる誤用が生じやすい。

また、アスペクト形式と組み合わせられて状態を表

わすことのできない韓国語動詞の過去形と日本語「Vテイル」との対応例に相当するケースとしては、“结婚(結婚する)”を用いた中国語表現との対応例である

- (46) 他结婚了。／彼は結婚しテイル。
(郭春貴 2017:137、142)

が挙げられる。但し、“结婚”は一つのまとまった概念を表わすものの、“结了婚”のような形をとることもあるため、“词(語)”に準じた“词组(連語)”と位置づけられている点で、韓国語の“결혼하다”や日本語の「結婚する」が一つの語であるのとは異なる。

日本語「-テイル」と同じく動詞に付加されて「動作(or 現象)の結果状態」を表わすことが可能な中国語の成分としては“-着”が存在するものの²⁴⁾、(43)～(46)の場合には用いることができず、

- (43)' *啊, 那些花都枯着。
(44)' *这些香蕉都烂着, 不能吃了。
(45)' *犯人死着。(陳淑梅 1997:25)
(46)' *他结婚着。(郭春貴 2017:137)

はいずれも非文である。これに対し、

- (47) 房间里灯亮着, 他一定在。
(部屋に明かりがついているので、彼はきっといるよ。)(郭春貴 2017:142、308)
- (48) 他的电脑一整天都开着。
(彼のパソコンは一日中ついている。)
(同上)
- (49) 老师在黑板前面站着。
(先生は黒板の前に立っている。)
(陳淑梅 1997:25)

においては“V着”が用いられている。陳淑梅 1997:24-25 は、「同じ瞬間動詞といわれるものを分析してみると、日本語においては無差別に『ている』の形を取るものでも、中国語に訳す場合には、『着』を付けられるものもあれば、付けてはならないものもある」とした上で、“-着”を付けられるケースにおける瞬間動詞の持続は「終点＝終わりのある持続状態」であるのに対し、付けられないケースにおけるそれは「それ以前の状態に戻ることはあり得ない」、

「動作そのものが一種の動作の終点—結末を表している」としている²⁵⁾。また、郭春貴 2017:141-142 は「ある瞬間動作が結果をもたらした後、その動作を繰り返すことができない場合があります。…。そういう時は、“着”が使えず、完了の“了”を使うのです」として、(46)および

- (50) 李老师的行李到了。
 (李先生の荷物が届いている。)
 (郭春貴 2017:141)
- (51) 水槽里的鱼死了。
 (水槽の中の魚が死んでいる。)(同上)
- (52) 院子里的树倒了。(庭の木が倒れている。)
 (同上)

を挙げている。これらのことは、同じく変化の結果状態であっても、“V着”を用いることができるのは「可逆的な」変化の結果状態を表わす場合であり、「不可逆的な」変化の結果状態を表わす場合には用いることができないということを意味し、“-着”が「持続」のマーカである点に着目すれば、時間有限的な動作(or 現象)の持続を表わす場合には“V着”を用いることができるのに対し、そうではない場合には用いることができないということになる²⁶⁾。

ところで、(44)、(45)の対応例からもみてとれるように、中国語の“V了”表現が「動作(or 現象)の結果状態」を前提とし、日本語「Vテイル」表現との間に対応関係を成立させる場合、アスペクト形式をとる韓国語動詞の過去形のような使用条件が“V了”には働かないようである。(43)～(45)、(50)～(52)の中国語表現のうち、「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提とするという条件に合致していることが確実と思われるものは(43)のみである。他は必ずしもそのような条件下で用いられるとは限らず、この点では

- (53) 身体垮了。(体を壊している。)
 (陳淑梅 1997:25)
- (54) 他大学毕业了。(彼は大学を卒業している。)
 (同上)
- (55) 会议开始了。(会議が始まっている。)
 (同上)

と同様である。このような意味において、“V了”を用いた中国語表現は、動詞の過去形を用いた韓国

語表現の場合よりも広い範囲のコトガラを表わすことができる。

ここで、“V了”が「動作(or 現象)の結果状態」を前提として用いられる要因について考えてみることにする。このことは、韓国語動詞の過去形が「動作(or 現象)の結果状態」を前提として用いられるに至った要因を考えるためのヒントとなる。張麟声 2001:140-142 は、

- (56) 刚盖好的一座楼房，很多地方油漆已经掉了。
 /建ったばかりの建物なのに、ペンキがすでにところどころはげテイマス。
 (張麟声 2001:140)
- (57) 昨天晚上一阵大风，樱花儿落了不少。
 /桜の花は昨晚の風でだいぶ落ちテイマス。
 (同上)

のような「離脱現象」を表わす表現に“-着”ではなく“-了”が用いられる理由について、「中国語ではこのような状況を表すのに、状態の持続自体を表すのではなくて、その持続している状態を引き起こす前の段階としての『変化』の成立を表します。すなわち、『ペンキがはげた → はげている』という状態や、『桜の花が落ちた → 落ちている』という状態において、『ペンキがはげた』、『桜の花が落ちた』という変化の成立を表し、そして、その後成り立った状態を含意するのです」とする一方、

- (58) 啊，袜子破了。/あつ、靴下が破れテイル！
 (同上)
- (59) 哎，计算机修好了。
 /あれ、コンピューター、直っテイルよ。
 (同上)

のような「静的な状態」を表わす表現において“-着”が使用できないのは、「動くイメージが何もない」からであり、『離脱』型現象の場合と同じく、状態自体というよりもそれを引き起こした変化に注目し、その変化が成立したことを表します。『了』が使われるゆえんです」としている。これらの説明には、2.2 で紹介した生越 1995:199 が、“ㄷ다”などのㄷ形が状態を表わすに至ったメカニズムについて、「変化時を特定できないものであるため、ㄷ形が表す変化の成立という意味が薄れ、もう一つの結果状態の持続性だけが残ったため」としていること

に通じるものがある。韓国語動詞の過去形はテンス形式、中国語の“V了”はアスペクト形式という相違はあるものの、「動作(or 現象)の結果状態」を前提として用いられるに至った要因においては相似点を有するということができよう²⁷⁾。このことは、韓国語の瞬間動詞(or 変化動詞)の過去形が状態の意味を潜在的に含んでいるのではないかという、2.1で提示した仮説と同様のことが、中国語の“V了”についてもあてはまる可能性があることを意味する。

ところで、中国語には“トコロ+V+N(存在物)”形式をとる存在表現(いわゆる「存現文」)があり、動詞が“-着”をともなった

(60) 桌子上摆**着**不少菜。

(テーブルの上にたくさんの料理が並べてある／並んでいる。)(成戸 2009:251)

(61) 桌子下边藏**着**一个小孩。

(テーブル(机)の下に子供が隠れている。)(同上:263、李臨定 1988:217)

のようなケースがみられる。このような表現は「発話時における話者の目の前の状態」を前提として用いることも可能であるが、発話時に限らず事物の存在のありようを表わす働きを有するものであり、小説などにおいて情景描写に用いられることも多い²⁸⁾。ついでながら、(60)～(61)の中国語表現は、“-아/어 있다”を用いた韓国語表現である(16)と同じく、「Vテイル」を用いた日本語表現との間に対応関係を有するが、他動詞を用いた(60)の中国語表現に対しては「Vテアル」を用いた日本語表現も対応しえる。“トコロ+V+N(存在物)”形式をとる表現の中には、

(62) 桌子上堆**了**很多书。(成戸 2009:251)

(63) 就正门口站**了**两个人。

(同上:263、范方连 1963:389 を一部修正)

のように動詞が“-了”をともなったケースもみられ、“-着”をともなった場合と同様に、表現の前提となるのは動作(or 現象)ではなく状態である。(62)～(63)のようなケースにおける“V了”は“V着”に近い性格を帯びており、その用法は「動作(or 現象)の完了を明示する」という典型的用法とは異なった非典型的用法と位置づけられるべきであると考えられる。このことには、“-了”が“トコロ+V+N

(存在物)”形式に用いられていることが強く影響している²⁹⁾。また、丸尾 2007:336 が、

(64) 书架上摆**了**很多书。

(本棚に本がたくさん並んでいる。)

(丸尾 2007:336)

の表わす内容が静態的であるのは「動作の完了と同時に存在状態が実現する」という性格にもとづくとしていることから、“V了”が「動作(or 現象)の結果状態」を前提として用いられるに至った発想の点で、非存在表現である(56)～(59)のようなケースに通じるものがあるということがみてとれよう。

3.2 中国語形容詞と日本語「Vテイル」

「Vテイル」に対しては“V了”が対応するほか、中国語形容詞が対応する以下のようなケースもみられる。

(65) 他很像他父亲。／彼はお父さんに似**テイル**。

(郭春貴 2017:137、141)

(65)は、アスペクト形式をとらない動詞の過去形を用いた韓国語表現と日本語「Vテイル」表現の対応例である(7)、(37)、(40)～(41)に相当するケースであり³⁰⁾、“**ㄷㄹ**다”と同じくアスペクト形式と組み合わせられて状態を表わすことのできない“결혼하다”に対応する“结婚／結婚する”を用いた(46)が“V了”、「Vテイル」の対応関係となっているのとは異なる。韓国語の“**ㄷㄹ**다”、日本語の「似**テイル**」はいずれも動詞を用いた表現形式であり、この点において中国語形容詞“像”との間に一線を画していることとなる。このような相違がありながらも(65)のような対応関係が成立するのは、変化時のはっきりしない変化を表わす“**ㄷㄹ**다”の過去形が形容詞的な性格を帯びるのと同様に、「似**テイル**」についても前提となる変化が認識されにくく、意味的に形容詞に近くなっていることによる。

韓国語動詞の過去形が状態を前提とした表現に用いられるのとは異なり、中国語の形容詞が“-了”をともなった場合には、形容詞が表わす状態に変化したことを表わす³¹⁾のであるが、「形容詞+“了”」に対しても日本語「Vテイル」が対応する以下のようなケースがみられる。

- (66) 窗帘脏了。／カーテンが汚れ**テイル**。
(郭春貴 2017:139)

- (67) 啊，这个电脑便宜了。
／あ、このパソコン安くな**っテイル**。(同上)

(66)、(67)は、郭春貴 2017:139 が“V了”を用いた中国語表現との対応例である

- (68) 啊，这件衣服破了。
／あ、この服破れ**テイル**。(同上)

- (69) 啊，这个茶杯破了。
／あ、このコップ割れ**テイル**。(同上)

とともに、「状態の変化の発見を表す『…ている』も“着”を使えない」ケースとして挙げているものである。同書が(66)について、「今まで汚れていなかったが、今見て汚れていることに気がついた時、日本語では『汚れている』のように変化の発見を『…ている』ということもあります、しかし、このような時、中国語では、変化の発見を表す文末の“了”を使うのです」としていることから、話者が変化の結果としての状態に気づいた(＝初めて目にした)場合の表現形式として中国語では「形容詞＋“了”」、日本語では「Vテイル」が用いられるケースが存在すること、そのようなケースにおいては中国語の「形容詞＋“了”」と韓国語動詞の過去形との間に用法上の相似点が存在するということがみてとれる。

(66)、(67)の中国語表現は、「形容詞＋“了”」の部分それぞれ「脏」、「便宜」という状態に変化したことを表わしているため、これらは発話時以前の状態との対比を前提とした表現であるということが出来る。一方、「Vテイル」を用いた日本語表現の場合、(67)の「安くな**っテイル**」は「なる」が含まれることによって「状態の変化」が明示されているのに対し、(66)の「汚れ**テイル**」は、コンテキストフリーであれば「状態の変化」よりは「発話時の状態」の意味に解されやすいのではなかろうか。(66)の対応例をみる限り、「汚れ**テイル**」においては、発話時以前の状態との対比を前提としていることが“脏了”の場合ほど明白ではない。

ここで、(67)の日本語表現に用いられている「形容詞連用形＋な**っテイル**」について考えてみることにする。(67)では「安くな**っテイル**」のように「**テイル**」が用いられているが、中国語形容詞に“了”が後置されて変化を表わす用法の説明は、例え

ば

- (70) 孩子大了，做父母的也就轻松多了。
／子供が大きくな**っタ**ので、両親もずっと楽になった。

(《現代汉语八百词》、『現代中国語文法用例辞典』“了”の項)

- (71) 头发白了，皱纹也多了。
／髪が白くなり、しわも増えた(多くな**っタ**)。(同上を一部修正)

のように、「形容詞連用形＋な**っタ**」形式の日本語表現との対応例を用いてなされるのが通例である。

(66)の日本語表現における「V**テイル**」を「V**タ**」に置き換えた

- (66)′ カーテンが汚れ**タ**。

も自然な表現として成立はするものの、「状態の変化」を明示しようとするのであれば、(70)、(71)のケースと同様に「汚くな**っタ**」とする方が better である。1.2 で述べたように、「V**テイル**」と直接に比較した場合には、変化前、変化後の双方を視野におさめて状態を表現するという「V**タ**」の働きの側面がうきぼりとなるものの、変化そのものを明示する形式ではないのである。

一方、(66)の日本語表現に対しては、

- (66)″ 窗帘很脏。／カーテンが汚れ**テイル**。
(郭春貴 2017:138)

のように“了”を用いない中国語形容詞表現を対応させることも可能であり、これは(65)と同様の対応パターンである。形容詞は事物の恒常的状态(＝属性)を表わすことが可能であり、これに「V**テイル**」が対応するのは、同形式にも同様の働きが備わっているためである。このような対応例の存在は、「V**テイル**」形式が「発話時における個別の状態」、「発話時に限定されない恒常的状态(＝属性)」のいずれを表わす働きをも有し、表現の前提となる客観的事実がどうか、話者がコトガラをどのようにとらえるかによって前者あるいは後者のいずれかの意味に傾くことを示唆しているのではなかろうか。例えば、(66)″の日本語表現は「発話時におけるカーテンの状態」に解しても何ら問題はないのに対し、

- (72) 河里的水很脏, 不能游泳。
／川の水が汚れ**テイル**ので、泳げない。
(同上:142、308)

の日本語表現は、変化を前提としない

- (73) 这条路很弯曲。／この道は曲が**っテイル**。
(同上:140 を一部修正)

のようなケースに近い性格を有するものであって、発話時に限定されない恒常的状态(=属性)というニュアンスが強く、この点は「汚れ**テイル**」を「汚い」に置き換えても意味にほとんど変化がないことによって理解されよう³²⁾。(66)”の日本語表現と同様のケースとしては、さらに

- (74) 空气很干燥。／空気が乾燥し**テイル**。
(同上:137、138)
- (75) 他的房间很乱。
／彼の部屋は散らか**っテイル**。(同上)
- (76) 这只猫很胖。／この猫は太**っテイル**。(同上)

のようなものが挙げられる。これらの日本語表現のうち、(76)の「太**っテイル**」は猫の属性としての性格が強いものの、発話時における一時的な状態(=個別の状態)に解される余地も皆無ではない。(74)、(75)の「乾燥し**テイル**」、「散らか**っテイル**」は、発話時に限定されない恒常的状态(=属性)、発話時における個別の状態のいずれに解することも可能であり、場面や文脈によっていずれかの意味に傾くと考えられる。

以上のように、中国語の形容詞表現を日本語表現と比較する際には、中国語における「形容詞+“了”——形容詞」の使い分けが日本語における「形容詞連用形+な**っタ**——形容詞」のそれと平行関係にあるという先入観を捨て、「**Vテイル**」のような周辺の形式をも加えて考察をすすめる必要があり、そうすることによって、諸形式の働き、相互の役割分担が立体的な形で見えてくるのである。このことは具体的には、中国語では「形容詞+“了”——形容詞」によって「状態変化——状態」が明確に表現し分けられているのに対し、日本語の「**Vテイル**」は「形容詞連用形+な**っタ**」と形容詞との間にあって「状態変化——状態」の双方を表わす働きをになっているということであり、中国語の「形容詞+“了”」

の側からみれば、同形式の働きは「**Vテイル**」、「形容詞連用形+な**っタ**」の領域にまたがっているということとなる。

4 おわりに

以上、動詞の過去形を用いた韓国語表現、「**Vテイル**」を用いた日本語表現の対応関係を中心に、日本語における「**Vテイル**」、「**Vタ**」の使い分け、韓国語動詞の過去形と“-고 있다”形、“-아/어 있다”形との使い分け、中国語における“**V了**”、“**V着**”の使い分け、形容詞と「形容詞+“了”」の使い分けなどと比較しながら考察を行なうための着眼点、分析方法、予測される結論などについて述べた。本稿でとり上げた韓国語動詞の過去形の用法は、日本語「**Vタ**」の発想との相違が際立っている部分であり、このような相違は、両言語間における動詞の性格の相違と密接に関わっている。統語的な分析と語彙的な分析とは表裏一体をなすことがしばしばであるが、いずれに軸足をおくにせよ、双方に目配りをしつつ作業を行なっていく必要がある。また、上記の諸形式の働きには、テンス的なもの、アスペクト的なもの、ムード的なものが混在しており、このことは、それぞれの形式がテンス形式、アスペクト形式、ムード形式などと規定されていることとは必ずしも一致しない。対照作業にあたっては、こういった点にも留意しながら、異言語間で対応するとされる表現形式間の共通点・相似点や相違点、表現形式に反映されたコトガラのとらえ方の相違についての分析を行なうことが求められるのである。

注

- 1) この点については井上・生越 1997:37、生越 1997:141 を参照。
- 2) これらの点については、成戸 2020:47 を参照。『日本語文法事典(「動作動詞と変化動詞」の項)』には、「瞬間動詞(or 変化動詞)」および「継続動詞(or 動作動詞)」の概念規定についての記述がみられる。
- 3) “일이 너무 **밀렸어**. 오늘 밤 잠은 다 **자다**. /仕事がたま**っテイル**、今晩は寝られない。(石賢敬 2014:60)”のようなケースは、話者が発話時に初めて目にした状態を前提としているとは限らないため、本稿における主たる考察対象とはならない。
- 4) 成戸 2020:59 において「動作の進行」、「動作の持続状態」となる概念として「動作結果の持続状態」と位置づけたものに該当する。

- 5) このような過去形の用法をいずれに位置づけるかをめぐっては意見が分かれている。この点については安平鎬 2001:221、223、227、228-231 を参照。
- 6) この点については、生越 1997:148、安平鎬 2001:219 を参照。同様の特色をもつ動詞としては“생기다(…ように見える)”があり、“그녀는 얼굴이 상당하게 **생겼다**。(彼女は優しい顔つきをしている。)”(『엣센스 韓日辞典』“생기다”の項)のような例がみられる。
- 7) 森田 1989:158 が「**-テイル**」の働きの一つとして「作用の結果の現存」を挙げ、「開い**テイル**」、「死ん**デイル**」を用いたケースについて「ある作用・行為が完了した瞬間を、時間を無視してとらえた表現」であるとしていることは、「発話時の状態」のみを視野におさめて表現することにつながる。
- 8) この点については、さらに井上・生越 1997:37、安平鎬 2001:221-222 を参照。
- 9) 「進行」を表わす現在形の働きについては成戸 2020:51-53 を参照。安平鎬 2001 は、過去形にはテンス、アスペクトいずれの用法もあるとする立場をとっている。
- 10) 安平鎬 2001:223 には、韓国語動詞の過去形をテンス・アスペクト体系の中に位置づけるべきか否か、位置づけるとすればいずれに属せしめるべきかについては意見が分かれている旨の記述がみられる。ちなみに、『日本語学キーワード事典(「過去・回想の助動詞」の項)』、『日本語文法事典(「タ³」の項)』には、「**タ**」の働きがテンス、アスペクト、ムードの領域にまたがっている旨の記述がみられるが、この点は、フランス語の進行表現を中心に中国語・日本語との対照作業を行なった成戸 2014:399-404、411-414、420-422 において、アスペクト形式がムード性を帯びる現象(être en train de+不定詞、「在V」)、アスペクト性を有する時制の形式(フランス語動詞の半過去形)について述べたことにも通じる。「**Vタ**」のムード性についてはさらに、いわゆる「発見の『**タ**』」について述べた寺村 1984:105-107、井上 2001:136-154、近藤 2008:65、『日本語文法事典(「タ¹」の項)』などを参照。
- 11) (2)と同様のケースとしては、生越 1997:139 に挙げられている“(買ってきたミカンを食べようとしたところ、腐っているのに気づいて)**썩었네**。／腐っ**テル**。”、“(海を見ているとき、おぼれている人を見つけ)**사람 빠졌다!**／人がおぼれ**テル!**”などがある。同:147 が「**피다**(咲く)、**썩다**(腐る)など自然の変化を表す動詞では、目の前の状況に対して結果状態形が使いにくいようである」としているのは、発話時に初めて目にした状態を前提とした用法についての記述であって、“-아/어 있다”と組み合わせられること自体を否定したものではないとみるべきであろう。(2)のケースとは異なり、“다나카 씨는 작년에 **죽었다**。(田中さんは去年死んだ。)”(生越 1995:187)”は単に過去の事実を語る表現である。
- 12) 李在鉉 2017:190-191 には、韓国語における過去形、結果状態形が話し手と聞き手との間に「情報や知識の違い(認識のずれ)」があるかどうかにより使い分けられ、過去形は認識のずれがあってもなくても使用できるのに対し、結果状態形は認識のずれがなければ使用できない旨の記述がみられる。認識のずれがあるということは、発話時の状態をそれ以前と切り離して述べることにつながるため、生越の見方と矛盾するものではない。
- 13) 同様の例としては、生越 1997:145-146 が「キャッチボールをしていて、取りそこなったボールが人の家の中に入った。ガチャーンという音がした。窓ガラスでも割ったんじゃないかと、そっと中をのぞいたところ、窓ガラスが割れている」という場面設定とともに挙げている“역시 **깨졌다**구나。／やっぱり割れ**タ**か。”がある。この場合に“割れ**テル**”も使用可能であるのは、割れる瞬間を見ていないためであると思われる。この点については、さらに井上 2001:105-107 を参照。
- 14) このことは、“가방 안에 책과 지갑이 들어 있습니다。(かばんの中に、本と財布が入っています。)”(『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)、“산에는 진달래가 곱게 **피어 있어요**。(山にはツツジがきれいに咲いています。)”(『新装版 韓国語文法辞典』“-어/아/여 있다”の項を一部修正)などをみれば理解しやすい。これらの表現もコンテキストフリーでは程度の差こそあれ「ドコニ」という情報が必要である。安平鎬 2000:227-228 は、「**Vテイル**」を用いた日本語表現についての記述においても「存在状態」という用語を使用している。
- 15) “저는 지금 양복을 입고 **있어요**。(私は今、背広を着ています。)”(『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)は動作の進行、状態のいずれを表わすことも可能である。
- 16) この点については成戸 2020 の注 44 でも紹介した。
- 17) 反復して行なわれる習慣的行為が「進行」に含まれる点については、日本語「**-テイル**」の働きについて述べた寺村 1984:128-129 を参照。
- 18) アスペクト形式と組み合わせられて状態を表わすことのできない動詞については、生越 1997:148、安平鎬 2001:216、NHK2004 年 6 月:56、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』などを参照。生越 1995:204 は、「変化時が特定されている文脈では過去形で過去の出来事を表わすことがある」とし、その例として“다나카 씨는 작년에 **결혼했다**。(田中さんは去年結婚した。)”を挙げているが、これは 1.1 で紹介した「単純過去」の用法(典型的用法)であり、“-고 있다”形との使い分けは問題とならない。安平鎬 2000:237 は、“**답다**”の過去形および日本語の「似**テイル**」が主体の属性を述べるのに用いられる点に言及している。
- 19) 注 17 と同じく日本語「**-テイル**」の働きについて述べた寺村 1984:130-131 を参照。
- 20) “맞다(合う)”は自動詞であるとされるが、管野 1990:260 は“맞았다(合っている)”について「現在形もまた用いられる」としているため、形容詞的な性格の強い動詞であるということができよう。自動詞とされる“비치다(透ける)”が“야, 그게 뭐야? 다 **비치잖아!**／(つき合っている彼女の着てきた服を見て)それ、何! 全部透け**テル**じゃない!(中山 2008:114-115)”のように非過去形で用いられるのも、形容詞的な性格を示していると推察される。浅井 2009:74 には、形容詞は変化の仕方や使われ方の点で動詞と似ており、状態を表わすことから「状態動詞」とよばれることがある反面、動詞とは異なって原形(辞書形)をそのまま使うことができる旨の記述がみられる。
- 21) 成戸 2020 の注 2 を参照。
- 22) この点については、さらに安平鎬 2001:216 を参照。初対

面ではない場合の例としては、“그 분은 왜 일본어 배우고 계세요? — 일본 가서 공부하고 싶대요. 이미 결혼도 했는데. / その方はどうして日本語習っていらっしゃるんですか。— 日本に行つて勉強したいそうです。もう結婚もしテルのに。(NHK2004年6月:56、72)”が挙げられる。

- 23) これらの点については、奥水 1985:175-177、258、呂才楨・戴惠本・賈永芬 1986:92、岡部編著 1990:75、『現代中国語総説』:270、273などを参照。
- 24) 動詞に付加された“-着”をアスペクトマーカ―とみるべきか否かについては議論がある。この点については成戸 2009:337-340、同 2014:392-394を参照。“-着”の働きについては成戸 2020:59、61-62でもふれた。
- 25) 但し、陳淑梅 1997:26は「両者の違いは微妙であり、判断しにくいことが多い」としている。
- 26) しばしば指摘されるように、“-了”は「持続」とは相容れない点において“-着”とは異なる。
- 27) 成戸 2009:258では、“主体+在・トコロ+V了+モノ(客体)”形式をとる“他在桌子上堆了很多书。(彼は机の上にたくさんの本を積んでいる。)”のような他動詞表現について「発話時における状態の存在を前提とした表現である」とし、このような表現に用いられる“-了”について「動作の完了に関わる成分であるが、完了した動作はすでに眼前にはなく、あるのは動作の完了によって残された結果であり、これが状態として存在している」とした。木村 1982:29-30は、“-了”が「動作・作用の完了の結果として存続している状態」を指す場合に用いられる例として“死了(死んでいる)”を挙げ、「完了表現を以て、それが含意 entail するところの結果の表現に充てられている」としている。
- 28) ちなみに、“トコロ+V着+N”表現は動態を表わすのにも用いられる。この点については成戸 2009:350-371を参照。
- 29) 成戸 2009:252では、このようなケースにおける“V了”は「モノの存在のありようの変化」を表わすとした。“トコロ+V+N(存在物)”形式に用いられる“V了”、“V着”の意味的な近似性については、成戸 2009:254を参照。
- 30) 形容詞は状態を表わし、状態は「持続」という意味特徴を有する概念であるため、“-着”を付加することはできない。(65)に“-着”を加えた“*他很像着他父亲。(郭春貴 2017:137)”は非文である。
- 31) 形容詞に付加された“-了”が「変化」を表わす点については、《現代汉语八百词》および『中国語文法用例辞典』の“了”の項を参照。荒川 2003:127は、動詞、形容詞に後置される“-了”は「動作、変化、状態の実現」を、文末に置かれる“-了”は「変化や変化に気づくこと」を表わすとしている。『中日大辞典(“了・瞭”の項)』における“-了”の働きについての説明は「動詞あるいは一部の形容詞に後置されて、動作や状態の完成を表す」となっている。動詞、形容詞に後置される“-了”の働きについては、さらに『現代中国語総説』:270-271、273を参照。
- 32) (73)の「曲がッテイル」の場合は表現の前提となる状態変化が存在せず、(72)の「汚レテイル」の場合はそれが問題とはされないという相違があるものの、事物の恒常的な状態を表わす点においては共通している。(73)の日本語

表現については、金田一 1976 a :44-47を参照。(72)、(73)の日本語表現にみられる「Vテイル」の用法の近似性あるいは連続性については、金田一 1976 b :11の記述が参考となろう。

参考文献

- 愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典(増訂第二版)』, 大修館書店(1987)。
- 浅井伸彦 2009.『これ一冊で! 基礎を固める 快速マスター韓国語』, 語研。
- 荒川清秀 2003.『一歩すすんだ中国語文法』, 大修館書店。
- 安平鎬 2000.「結果相を表す表現と空間表現との共起関係 — 日韓対照を中心に —」, 青木三郎・竹沢幸一編『空間表現と文法』, くろしお出版, 215-247頁。
- 安平鎬 2001.「韓国語の『タ』:『hayss-ta(했다)をめぐって』, つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』, ひつじ書房, 207-250頁。
- 井上優・生越直樹 1997.「過去形の使用に関わる語用論的要因 — 日本語と朝鮮語の場合 —」, 『日本語科学』第1号, 国立国語研究所, 37-51頁。
- 井上優 2001.「現代日本語の『タ』 — 主文末の『…タ』の意味について —」, つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』, ひつじ書房, 97-159頁。
- 『NHK ラジオ 안녕하십니까? ハングル講座』2004年6月号, 日本放送出版協会。(略称 NHK)
- 岡部謙治編著『この中国語はなぜ誤りか』, 光生館(1990)。
- 生越直樹 1995.「朝鮮語했다形、해 있다形(하고 있다形)と日本語シタ形、シテイル形」, 『国立国語研究所報告 110 研究報告集 16』, 国立国語研究所(秀英出版), 185-206頁。
- 生越直樹 1997.「朝鮮語と日本語の過去形の使い方について — 結果状態形との関係を中心に —」, 『日本語と外国語との対照研究IV 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』, 国立国語研究所, 139-152頁。
- 郭春貴 2017.『誤用から学ぶ中国語 続編2 助動詞、介詞、数量詞を中心に』, 白帝社。
- 韓国・国立国語院著『標準 韓国語文法辞典』, アルク(2012)。
- 菅野裕臣 1986.「朝鮮語のテンスとアスペクト」, 『学習院大学言語共同研究所紀要』第9号, 学習院大学言語共同研究所, 60-70頁。
- 菅野裕臣 1990.「朝鮮語と日本語」, 近藤達夫編集『講座 日本語と日本語教育 第12巻 言語学要説(下)』, 明治書院, 241-265頁。
- 菅野裕臣 2017.『朝鮮漢字音 入門と発展』, 三修社。
- 木村英樹 1982.「テンス・アスペクト(中国語)」, 森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 11 外国語との対照II』, 明治書院(再版 1984), 19-39頁。
- 金田一春彦 1976 a.「日本語動詞のテンスとアスペクト」, 金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』, むぎ書房(1976), 27-61頁。(原著は金田一春彦 1954)
- 金田一春彦 1976 b.「国語動詞の一分類」, 金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』, むぎ書房(1976), 5-26頁。(原著は金田一春彦 1947)
- 小池清治・小林賢次・細川英雄・犬飼隆編集『日本語学キー

- ワード事典』, 朝倉書店(1997)。
- 興水優 1985. 『中国語の語法の話 — 中国語文法概論』, 光生館。
- 近藤安月子 2008. 『日本語教師を目指す人のための 日本語学入門』, 研究社。
- 石賢敬 2014. 「テンスとアスペクト」, 沖森卓也・曹喜澈編著『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』, 朝倉書店, 59-66 頁。
- 張麟声 2001. 『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉 20 例』, スリーエーネットワーク。
- 陳淑梅 1997. 「『～テイル』の中国語訳についての一考察」, 『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化コミュニケーション』第 19 号, 慶應義塾大学, 23-33 頁。
- 寺村秀夫 1984. 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』, くろしお出版。
- 『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』, 東京外国語大学(2015)。
- 中山義幸 2008. 『韓国人の思考方式を知る ケーススタディ & フレーズ 55』, アルク。
- 成戸浩嗣 2009. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2014. 『日中・日仏対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2020. 「韓国語の進行表現、状態表現をめぐる対照研究方法論 — 中国語・フランス語・日本語の視点から —」, 『愛知学泉大学紀要』第 3 巻第 1 号, 45-66 頁。
- 日本語文法学会編『日本語文法事典』, 大修館書店(2014)。
- 北京大学中国語文学系現代漢語教研室編／松岡榮志・古川裕監訳『現代中国語総説』, 三省堂(2004)。
- 白峰子(ペク・ボンジャ)著／大井秀明訳『新装版 韓国語文法辞典』, 三修社(2019)。
- 前田綱紀 1982. 「『……している, ……してある』の日本語朝鮮語対照」, 『日本語教育』第 48 号, 日本語教育学会, 66-76 頁。
- 丸尾誠 2007. 「中国語にみられる完了と結果の接点 — “V了” と “V着” を例として —」, 彭飛編集『日中対照言語学研究論文集 — 中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴 —』, 和泉書院, 327-344 頁。
- 森田良行 1989. 『基礎日本語辞典』, 角川書店(10 版 2005)。
- 安田吉実・孫洛範・箕輪吉次・李淑子編著『애크스 韓日辞典』, 民衆書林(2006)。
- 李在鉉 2017. 「日本語と韓国語の結果状態形の使用基準の違い」, 『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部 第 66 号, 185-194 頁。
- 呂才楨・戴惠本・賈永芬 1986. 『日本人の誤りやすい 中国語表現 300 例』, 光生館。
- 呂叔湘主編／牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典 — 《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』, 東方書店(改訂版 2003)。
- 范方蓮 1963. <存在句>, 《中国语文》1963 年第 5 期, 中国语文杂志社, 386-395 頁。
- 李臨定 1988. 《汉语比较变换语法》, 中国社会科学出版社。
- 呂叔湘主編《現代漢語八百詞(增訂本)》, 商务印书馆(1999)。

(原稿受理年月日: 2021 年 1 月 5 日)